

「がまんする」

■エピソード

4歳のみずきちゃんには中学1年生のおるさんという兄がいます。おるさんは入学してからバスケット部に所属して毎日練習に励んでいます。みずきちゃんはお兄ちゃんが好きで、以前はよく遊んでもらっていましたが、中学生になった今はなかなか遊んでくれなくなりました。

お母さんのさなえさんは仕事の都合で、みずきちゃんを保育所の延長保育や近所の祖母に預ける事が多くなっています。

休日にさなえさんと祖母とで大型ショッピングセンターに行ったみずきちゃんは、以前からほしかったままごとセットを見つけました。

みずき：「お母さん、このおままごと、買って!」

さなえ：「今日はお誕生日じゃないでしょ。また、今度ね。」

みずき：「イヤだ! 買ってほしい!」

いつもはわりと聞き分けの良いみずきちゃんですが、このときは、なかなかあきらめず、座り込んで動きません。さなえさんは困ってしまいました。



祖母：「あらっ、みずきちゃん、いつも賢いのにならうしたの？ このおままごとが欲しいの？ そんなに欲しいなら、買ってあげようか。」

さなえ：「お母さん、それは困ります。わがままになりますから。」

そのやりとりを聞いていたみずきちゃんは、

みずき：「じゃあ、お誕生日に絶対買ってね!」

と言って、やっと立ち上がりました。

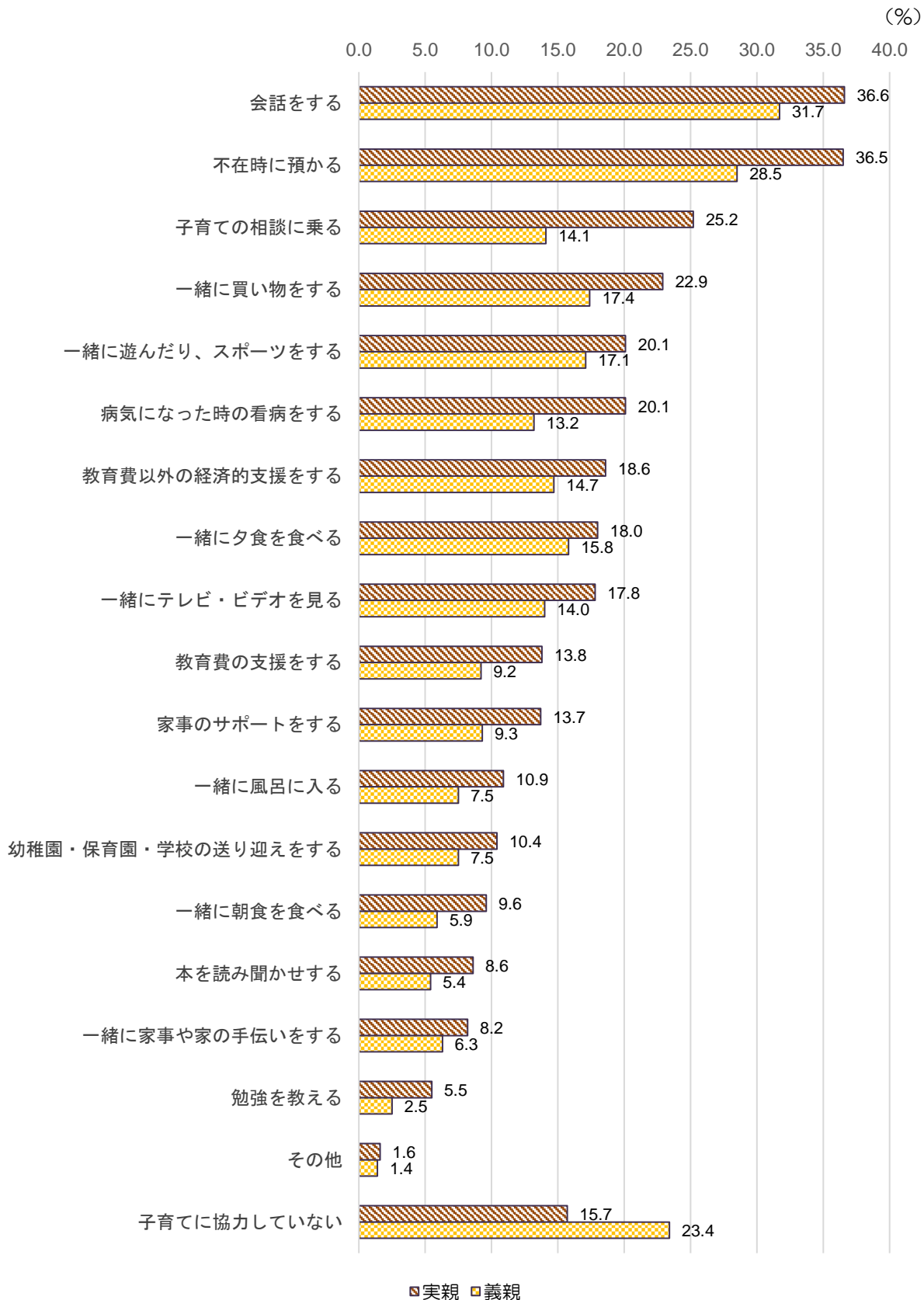
さなえ：「みずき、すごいわ。偉いね!」

みずきちゃんは得意そうに顔をまっすぐにあげて歩いて行きました。

■ 参考資料

〈親（子どもから見ると祖父母）の子育てへの協力内容※複数回答有〉

（18歳以下の子どもを有する保護者への調査結果）



資料：文部科学省「家庭教育の総合的推進に関する調査研究—家庭教育支援の充実のための実態等把握調査研究—」（平成29年3月）

● 子どもとの関わり方の例

Q 1歳の子どもですが、全然、がまんできません。
どうすればいいでしょうか。

A 4歳ごろから、目標に向かってがまんする力が発達します。

そもそも「がまん」にも2種類あります。1つめは、親や教師にさせられるがまん。「がまんしなさい。」というときのがまんはこちらです。2つめは、例えば、大好きなブランコの前行列ができていたとき「すぐ乗りたい」気持ちをがまんして順番を待つこと。2つめのがまんが「目標に向かってがまんする力」なのですが、こちらは4歳ごろから発達します。3歳より小さな子どもにがまんさせてもその力は育ちません。その時期には、子どもの不安をいつでも受けとめる心のよりどころとなるような関わりや、子どもの思いをくみとろうとするような関わりを大切にしてください。

ただし、1歳の子ども、危険な物にさわろうとしていたときなどは、それをとめて、ダメと教えてください。（同時に、危険な物は、子どもの届かないところに置きましょう。）



京都大学 大学院
准教授
森口先生

目的のために、がまんするかどうかを、子どもが選ぶようにする

少し後で楽しいことが待っている場面で、子どもがどうするかを選び、少しがまんする経験を重ねることで、がまんする力（自制心）が育まれます。



「今、1つだけ動画を見るか、後で2つ見るか。」など、子どもが目的に向かってがまんするかどうかを決める場面を作るといいでしょう。

そのがまんの後に、目的が達成された（できた）経験を重ねることで、がまんする力（自制心）が育まれます。

そのとき、子どもが自分で選択することが大事です。子どもが、がまんする方を選ばないときは、また次の機会を探しましょう。